

関西保育界の窓

第62回関西幼稚園連合会教育研究大会に参加して

河辺 泉

関西幼稚園連合会に加盟される二府五県の国・公・私立幼稚園関係者の約千数百名のつどいが、去る年の十一月五日に天津市を会場として盛大に開催された。さいわい私は天津市教育委員会で幼稚園の教育行政の一部を担当させてもらってから、二度目の大会にめぐりあうことができ、その間にける関西保育界の成長の軌跡をたどることができるようにも感じた。赤と白の幕で囲まれた小学校の講堂を借りて開催されていた数年前の大会の当時を回想しながら、千五百人を充分に収容することができ、近代建築をほこる滋賀会館の大ホールの会場に入ったとき、会場の雰囲気ですでに記念式的なものから脱皮して、整理され統一のある現代教育の研究大会場といった感じを強くもった。受付や会場の各府県の席名の色とりどりの風船が会場の空間をやわらげていたことなど大会運営事務の構成へのきもちよい、心づかいのほどがしのばれてう

れしかった。

こうした会場の雰囲気にはきかえ、厳粛な開会式や表彰式などを会員のみなさんとはどんなに感じとっておられたのだろうか。運営委員会の配慮はいろいろ想像できるが、どうしても儀式ばって会場の雰囲気が固まるしくなるのはさけられないと思う。ちょうど前夜当日の講師としてお迎えした坂元氏に御出会いできる機会を得ていろいろ御指導にあずかった話の中で「関西というところは、他の地方にくらべて、ことのほか儀式的な運営を尊ぶ点があるよ。特に幼稚園においては……」と。そう聞けば、特色としてこのままの形式をつづけていかれるのもよいように思うと共に、またいつかの機会に新しい運営の妙が打ち出されるのではなからうかと可能性への魅力をも同時に感じたひとりである。

いよいよ研究大会のプログラムにはいろいろ研究発表が行なわれたが私どものパネルの

打ち合わせで終始充分拝聴することができなかったので発表の原稿をあとから拝見しながら強く感じたことは実践をふまえて整理された確かな蓄積資料にもとづく、帰納的でも着実な研究が多く、またその発表方法においても視聽覚的方法をたくみに用いて要領よく発表されていたことである。

奈良学芸大付幼の共同研究者を代表して吉田美智氏が八ミリ映画を使用して発表された「自然領域の環境構成と指導について」は教育要領に示されている「自然」の経験領域の内容の意味を、実践を通して「幼児を取巻くありのままのいろいろな事物や現象に外ならない」と明確にされたことや、従来とかくどのような経験内容を、どの程度に用意するかと指導事項や活動内容の研究ばかりに終って、ほとんど着手することが難かしいとされていた環境構成や、指導形態や指導過程などの根本的な問題の究明にあたられて、その成果をまとめて発表されていたが、今後の実践研究に新しい手がかりを与えられて大へん意義深いものであったと思う。

次に、和歌山県加茂第一幼の南野恵子氏が幻燈を使用して、純朴な農村にあって創立四年という歴史も新しく、またクラス19名で二クラス編成という小さな園において「どのようにして集団生活になれさせ

て望ましい社会性をそだてて来たか」の貴重な体験について発表された。特に「輪なげ」「ままごと」「砂あそび」などのあそびの中におけるリーダーの性格とあそびの持続時間や態度の関係や、リーダーの成員に対する思いやり如何とあそびの内容の豊かさとの関係などリーダーと成員との関係によって、集団活動のよりあがりに影響を及ぼしている点やその段階や条件や集団参加への技術などを指摘されていて、甚だ示唆にとんだ研究発表であったと思うと共に、更にどんな生活の場で、どのようなことを契機(物や興味の内容など、媒介となるものの質やそれとのかかわり方の構造)として集団ができ、リーダーと成員が望ましい姿へ発展していくものかなど今後の貴重な資料のるい積と分析について大いに期待したいものである。

最後に兵庫県加古川市立川西幼の永野百合子氏が「家庭におけるグループ保育」というテーマで、発表されたのであるが、幼児の家庭生活ののぞましいあり方をそれととりまく地域社会の集団生活の姿でとらえて、これを指導してこられた実践は尊いものだと思った。毎週木曜日の午後、各地域ごとに子どもたちが四、五名のグループをつくって当番の家へ遊びに行くのを、先生達が家庭を巡回して家庭生活におけるグループ活動を間接的に指導し、時として親

達が相互にそのグループ活動育成の成果について話し合いをすすめているという。幼児の家庭生活のあり方については、ややもするとP・T・Aの会合や家庭訪問の機会に単なる話し合いもして終ってしまいがちにであるが、よくもしてまで具体化した実践にうつして実績を挙げてこられたものだと敬服すると共に園外生活の指導についてはいろいろな意見があるかもしれないが、これによって醸成された幼児教育に対する地域社会の理解と協力の力強い基盤が本場に尊いものだと思った。

以上の貴重な体験にもとづく研究発表は全会員にそれぞれ深い感銘と新しい決意を与えたにちがいない。昼食休憩に続くパレールに見る会員のひとみや口もとのほころびが一時間前の緊張を物語っていたようだ。

午後は会員の注目をあつめて(敬称略)倉敷市(公)西阿知幼 西山多津子・神戸市(私)夢野幼 岩下白百合・大阪市(私)小松幼 太田敬子・京都市(公)貞教幼 服部縫子・和歌山市(私)松風幼 谷口馨・奈良県大和郡山市郡山幼 浅井久子・滋賀大津市(公)長等幼 山本絹子の七人の提案者と 助言指導者の坂元彦太郎氏と司会の私を加えて九人のメンバーによるパネルからはじまったのである。

司会者としては内容が特に「自由あそび」

というテーマであるだけに、いろいろ深く話し合う必要を痛感していたため、少なくとも、いわゆるパネルディスカッションをやっても前回のたいと考えていたのであるが、充分な事前の打ち合わせをする機会もなく、また時間のふりわりをメンバーの数とひきくらべてみたとき、これではパネルはできないと考えシンポジウムといった形式で提案者の意見発表を中心にして、残りの時間をなにか一つの問題にしほり若干の意見交換をし、最後に助言者の御指導を得るような計画に変更せざるを得なかった。また、七分間でそれぞれの考え方や問題点をまとめて発表していただくことにすら随分無理があったように思われた。この点内容の打ち合わせや、討議の方法などについて充分再吟味する必要があるように感じた。

意見発表の内容については、各提案者とも大体、「自由あそび」の考え方や指導上の問題点の二点にしほって提案されていた。第一の「考え方」については、園の規模、公・私立のちがいや保育年数、独立、ならびに小学校併設のちがいや、またそれぞれの発表者の表現などにもとづくちがいが(こちらの受けとめ方のちがいがも含めて)等いろいろのちがいが感じられたが、これらのちがいのうちにある本質的な共通の問題を充分つかむことも討議することもできなかったことはなはだ残念であった。しか

し、「自由あそび」となのつく活動の意義についてやはりいろいろ意見が出された。すなわち(一)その活動の姿、即ち「あそび」そのものとしてとらえていたり、(二)一つの指導形態としてとらえていたり、(三)前者の二つの見方を併せ考えようとしてきた園もあった。また、「自由あそび」と「設定保育」(主題とか単元と呼ばれているもの)を分析してみても、(一)自由あそびでは幼児を自主的にはできるが、なにか経験内容について片よりができるから、その補いとして単元などの計画、設定保育をプラスして展開していきや、(二)この両者を、できるだけ有機的に関連させていこうとするいき方や、(三)一応主題や単元などの指導計画をもっているが、それを自然な遊びの姿から出発してその自由遊びの形態の中で望ましい経験の方向へ指導し、その過程で不十分な内容について、学級としてまとまった活動の形態(必ずしも一斉ではない、グループ的に行なう場合もある)で指導しているといったカリキュラムの構造やその具体的実践の方法の上から、いろいろのちがいがでて来ているように思われた。

特に短かい時間であったが、意見発表のあとにさききのべた「かたより」が問題となり京都、大津の服部、山本両氏より意見を聞く程度に終り、討議するまでに至ら

ず、充分納得していただけないままに時間が来て終ったことは、かえすがえすも残念なことであった。よく「自由あそび」について論議されると、保育要領時代の内容的な考え方や形態的な考え方が混乱して、自由あそびを教育要領の六領域の内容と対立させて考えようとするむきがないでもない。そこから「自由あそび」では内容のかたよりができるのではないかなどの疑問がでてくるのではないだろうか。またその「かたより」といわれるものは何をさされているのか、またなにを基準にして「かたより」といわれているのか、「かたよりがない」とはどんなことをいうのか。この辺の問題をもっとも時間をかけて論議すべきではないかと思った。また会員のみなさんはこれ以外にも多くの問題をもたれたであろうから、何かの機会にどこの地域でも真剣に実践をふまえながら研究討議していただき、いつかの機会に私や参加された会員の皆さんに聞かしていただきたいと思っている。最後に坂元氏より助言をいただき「自発的な活動として内面的なものを育てていくことは大事である。しかし抵抗のない「自由あそび」であってはならない。教育要領の内容を指導する機会としても考えていくべきだ」と時間すくなくまともな時間一杯で名残り惜しい幕切れとなつたがこのパネルが明日の幼児教育研

究のオリエンテーションともなれば幸いである。

坂元氏にはゆっくり休憩していただく間もなく、引き続き「幼児教育課題の諸問題」を中心に御講演いただいた。幼稚園教育要領で示された望ましい経験内容が小学校と深い関連を考慮しながらも決して小学校各教科の指導内容と同一視して考えてはならないことや、実際指導計画をもつにあたっては、できるだけこまかな準備を心がけつつも、実際指導では総合的に、しかも必要である等々……いつもながらのものやわらかな調子で順々としかも具体的に説いていかれる熱演に聞き入ると共に、いまさらながら、幼児教育にたずさわることの「きめこまかな愛情と指導への思慮」がいかに重要であるかについてめざめることができた喜びをもつたのも、私ひとりではなかつたであろうと思う。

「花のおきなご」の大合唱が、次の京都大会への参加を約束するかのようになっている頃、白亜の会場は美しい紅にかがやいて、いろいろどりの風船が、湖上よりの気流にのって、ひときわたくすわれるように流れていった。あたかも現代教育に賭けたきょうの大会を祝福するかのようだ。

(天津市教育委員会指導主事)